第 64 回日本環境化学会講演会

「ダイオキシン類分析のあゆみと最新技術が切り拓く分析の最前線」

ダイオキシン（DXN）類は、一般毒性、発がん性、生殖毒性、免疫毒性など多岐にわたる毒性を示します。しかし、その存在量は極めて微量であり、かつ多量に共存する物質を除去したうえで分析する必要があるため、最も難易度の高い超微量分析の一つとされています。現在では、ガスクロマトグラフ／高分解能質量分析法（GC-HRMS）により環境試料の極微量測定が可能となっていますが、測定には高度な熟練技術が求められるのが現状です。一方で、機器分析技術の進歩は著しく、GC-MS/MS や GC-TOF は従来よりも性能が向上し、さらに Orbitrap GC-MS や APGC といった新しい分析技術も登場しています。これらを活用した新しい DXN 類分析法の開発研究が進められています。1990 年に発足した本学会は、DXN 分析技術や対策等に長年にわたり多大な貢献をしてきました。その 35 周年記念事業の一環として、本講演会では、各分野の専門家をお招きし、DXN 類分析の歩みを振り返るとともに、最新技術の可能性について最新研究を交えながらご講演・ご議論いただきます。

主　催：(一社)日本環境化学会講演会企画部会・POPs 部会・関東地区部会
　　NPO 法人環境測定品質管理センター
後　援：(一社)日本環境測定分析協会
期　日：2026 年 2 月 20 日　10:30～16:40（10:10 に受付開始いたします）
場　所：日比谷コンベンションホール（〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4）
定　員：現地参加 200 名（後日 Web 配信あり）
参加費：主催後援団体会員 3,000 円(学生含む)、非会員 6,000 円
　　Web 配信視聴のみの場合も同額
参加登録はこちら

プログラム（2025 年 11 月 7 日現在）

10:30　開会あいさつ（受付開始 10:10）
10:35　「ダイオキシン分析のあゆみ 異性体分析と起源推定」
　中野 武（日本環境化学会会長、神戸大学 バイオシグナル総合研究センター　客員教授）
11:05「ダイオキシン類 POPs の極微量分析技術の進展と将来展望」
　高菅 卓三（日本環境化学会副会長、（株）島津テクノリサーチ 特任フェロー）
11:45　昼食休憩（企業展示あり）
13:15「GC-TOFMS によるダイオキシン分析とその先」
　橋本 俊次（国立環境研究所 環境リスク・健康領域計測化学研究室 室長）
13:55「地方環境研究所としてのダイオキシン分析の取り組みおよび APGC 法によるダイオキシン分析について」
　竹峰 秀祐（埼玉県環境科学国際センター 化学物質・環境放射能担当 専門研究員）
14:25「日本環境測定分析協会(UTA 研)でのダイオキシン測定への取り組みと GC/MS/MS によるダイオキシン分析について」（仮）
　高橋 厚（日本環境測定分析協会 極微量物質研究会（UTA 研）委員長、いであ（株）環境創造研究所 環境化学部 グループ長）
15:05 休憩（企業展示あり）
15:15 企業ショートプレゼンテーション
16:05 総合質問・討論 30 分
16:35 閉会あいさつ

企業展示および企業ショートプレゼンテーションへのご協力をお願いします。
詳細は下記問合せ先へご確認ください。

- 当日、発熱・体調不良の方の参加はご遠慮願います。
- 会場に駐車場・駐輪場はありませんので、ご来場には公共交通機関等をご利用下さい。

問合せ先：一般社団法人日本環境化学会事務局　office(at)j-ec.or.jp　029-886-3185